

科目名	健康生活看護学(母性援助)			ナンバリング	PEN341	授業形態	演習
対象学年	2 年	開講時期	後期	科目分類	必修	単位数	2 単位
代表教員	久米美代子	担当教員	久米美代子、〇鈴木久美子、瀬戸愛子				

授業の概要	女性のライフステージにおける発達段階や健康課題、女性特有の健康障がいなど、女性の生涯を通じた健康と看護援助について理解する。また、マタニティサイクル(妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期)における母子とその家族を対象に、生理的・心理的・社会的変化と特徴を理解し、そのケアとより良い健康な生活に向けた看護援助を実践するための知識・技術、看護の役割を学修する。さらに、マタニティサイクルにおけるリスクとアセスメント、看護援助技術についても学修する。						
到達目標	1.女性のライフステージにおける発達課題や健康課題、女性特有の健康障がいについて理解できる 2.マタニティサイクル各期の女性および胎児の正常経過と健康を維持するための看護について理解することができる 3.マタニティサイクル各期の女性および胎児の異常経過とそれらに対する看護について理解することができる 4.マタニティサイクル各期の女性および胎児とその家族の心理・社会的特性をふまえた看護について理解することができる 5.マタニティサイクル各期の女性および新生児期における特有のフィジカルアセスメントを理解し、看護計画を立案することができる 6.マタニティサイクル各期の女性および新生児期における特有の看護援助技術を理解し、基本的な観察や看護援助技術をモデル人形を用いて修得することができる						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)	・講義の予定に従って、予習・復習を行きましょう ・欠席をすると看護援助技術の修得が難しくなりますので自己の健康管理に留意し、欠席がないようにしましょう						
ディプロマポリシーとの 関連	【看護学部看護学科のディプロマポリシー】						
		1. 広い視野と豊かな教養に基づき、看護の担い手としてふさわしいヒューマンイズムと倫理観を身につけている。					
	○	2. EBN(Evidence Based Nursing: 根拠に基づいた看護)に基づき、自律的に看護を実践することができる。					
	○	3. 生命の尊厳と人権を尊重する姿勢を身につけ、多職種と連携・協働することができる。					
		4. 地域の健康課題に関するニーズをとらえ、災害時の援助活動も含め、積極的に地域貢献できる能力と態度を身につけている。					
	○	5. 看護専門職として科学と看護の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的学修ができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
別紙(ルーブリックのレベル3)	別紙(ルーブリックのレベル5)

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)	○						60%
小テスト・授業内レポート	○	○			○		40%
宿題・授業外レポート	○	○			○		加点はしないが 減点となることがある
授業態度・授業への参加			○	○			加点はしないが 減点となることがある

課題、評価のフィードバック	1.レポートなどの提出物はmanab@内に提出し、グループ担当教員がmanab@内で適宜コメントする 2.試験解答用紙は、要請があればいつでも開示する
---------------	--

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	ガイダンス：授業のねらい・学び方 妊娠の生理①	1.授業のねらい・学び方について解説する 2.妊娠の生理	
	第2回	妊娠の生理②	1.妊娠の生理	
	第3回	妊娠期のアセスメントとケア①	1.妊婦と胎児の健康状態のアセスメント 2.妊婦と家族のケア	
	第4回	妊娠期のアセスメントとケア②	1.妊婦と胎児の健康状態のアセスメント 2.妊婦と家族のケア	
	第5回	妊娠期のアセスメントとケア③	1.妊婦と胎児の健康状態のアセスメント 2.妊婦と家族のケア	
	第6回	妊娠期のアセスメントとケア④	1.妊婦と胎児の健康状態のアセスメント 2.妊婦と家族のケア	
	第7回	妊婦事例を用いた看護計画の立案①	妊婦の事例を用いてアセスメントし、看護計画を立案	
	第8回	妊婦事例を用いた看護計画の立案② 小テスト	1.妊婦の事例を用いてアセスメントし、看護計画を立案 2.小テスト	
	第9回	分娩の生理 分娩期のアセスメントとケア①	1.分娩の生理 2.産婦と胎児の健康状態のアセスメント	
	第10回	分娩期のアセスメントとケア②	1.産婦と胎児の健康状態のアセスメント 2.産婦と家族のケア	
	第11回	分娩期のアセスメントとケア③	1.産婦と胎児の健康状態のアセスメント 2.産婦と家族のケア	
	第12回	産婦事例を用いた看護計画の立案①	産婦の事例を用いてアセスメントし、看護計画を立案	
	第13回	産婦事例を用いた看護計画の立案②	産婦の事例を用いてアセスメントし、看護計画を立案	
	第14回	産褥期の生理①	産褥期の身体的特徴	
	第15回	産褥期の生理②	褥婦および家族の心理・社会的特徴	
	試験	第8回、第26回に小テストを行う		

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第16回	産褥期のアセスメントとケア①	1.褥婦の健康状態のアセスメント 2.褥婦へのケアとセルフケア行動	
	第17回	産褥期のアセスメントとケア②	1.褥婦の健康状態のアセスメント 2.褥婦へのケアとセルフケア行動	
	第18回	産褥期のアセスメントとケア③	1.褥婦の健康状態のアセスメント 2.褥婦および家族への親役割支援・社会支援	
	第19回	褥婦事例を用いた看護計画の立案①	褥婦の事例を用いてアセスメントし、看護計画を立案	
	第20回	褥婦事例を用いた看護計画の立案②	褥婦の事例を用いてアセスメントし、看護計画を立案	
	第21回	新生児期の生理 新生児期のアセスメントとケア①	1.新生児の生理 2.新生児の健康状態のアセスメント	
	第22回	新生児期のアセスメントとケア②	1.新生児の健康状態のアセスメント 2.新生児のケア	
	第23回	新生児期のアセスメントとケア③	1.新生児の健康状態のアセスメント 2.新生児のケア	
	第24回	新生児事例を用いた看護計画の立案①	新生児の事例を用いてアセスメントし、看護計画を立案	
	第25回	新生児事例を用いた看護計画の立案②	新生児の事例を用いてアセスメントし、看護計画を立案	
	第26回	分娩期・新生児期・産褥期のまとめ 小テスト	分娩期・新生児期・産褥期における母児とその家族の生理的・心理的・社会的変化と特徴、看護援助を実践するための知識・看護の役割、小テスト	
	第27回	妊婦事例を用いた看護援助技術①	妊婦の事例を用いて立案した看護計画に従って、看護援助技術演習を	
	第28回	妊婦事例を用いた看護援助技術②	妊婦の事例を用いて立案した看護計画に従って、看護援助技術を演習	
	第29回	褥婦・新生児事例を用いた看護援助技術①	褥婦・新生児の事例を用いて立案した看護計画を用いて、看護援助技術を演習	
	第30回	褥婦・新生児事例を用いた看護援助技術②	褥婦・新生児の事例を用いて立案した看護計画を用いて、看護援助技術を演習	
	試験	学習した全ての範囲を対象に期末試験を実施する		
授業の進め方		妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期の生理と看護について講義と看護過程について学んだ後、看護援助技術の演習を実施する		
授業外学習の指示		日頃よりマタニティサイクル各期における女性とその家族に関する情報に目を向けること。既習の専門科目の知識が必要となるため、復習して臨むこと。講義や演習で不明な点は必ず教科書で確認するか教員へ質問し、不明点をそのままにしないこと。教科書の該当箇所を必ず読み、講義へ参加すること。 (授業外学習時間： 毎週 90 分)		

教科書	横尾京子他(2017):ナースンググラフィカ母性看護学① 母性看護実践の基本. 大阪府, 株式会社メディカ出版. 太田操(2017):ウエルネス看護診断にもとづく母性看護過程第3版. 医歯薬出版株式会社
参考書	講義内で適宜、紹介する
参考URLなど	特になし
その他	特になし

健康生活看護学（母性援助）ルーブリック

評価規準 項目／観点		レベル高 ← 評価基準 → レベル低				
		レベル5（高次目標）	レベル4	レベル3（合格ライン）	レベル2	レベル1
1	女性のライフステージにおける発達課題や健康課題、女性特有の健康障がいについて理解できる	女性のライフステージにおける発達課題や健康課題、女性特有の健康障がいについて理解でき、発達課題や健康障がいに関わった看護計画を立案することができる	女性のライフステージにおける発達課題や健康課題、女性特有の健康障がいについて具体的に説明できる	女性のライフステージにおける発達課題や健康課題、女性特有の健康障がいについて理解できる	女性のライフステージにおける発達課題や健康課題、女性特有の健康障がいについて、理解が不足しているか、間違っている	女性のライフステージにおける発達課題や健康課題、女性特有の健康障がいについて理解することができない
2	マタニティサイクル各期の女性および胎児の正常経過と健康を維持するための看護について理解することができる	マタニティサイクル各期の女性および胎児の正常経過と健康を維持するための看護に加え、健康を増進するために必要な看護と保健指導について具体的な提案ができる	マタニティサイクル各期の女性および胎児の正常経過と健康を維持するための看護に加え、健康を増進するために必要な看護についての視点も持つことができる	マタニティサイクル各期の女性および胎児の正常経過と健康を維持するための看護について理解することができる	マタニティサイクル各期の女性および胎児の正常経過と健康を維持するための看護のために必要な情報をデータとして挙げることは出来るが分析が不十分である	マタニティサイクル各期の女性および胎児の正常経過と健康を維持するための看護について、対象事例の看護のために必要な身体的情報は何かを理解することができない
3	マタニティサイクル各期の女性および胎児の異常経過とそれらに対する看護について理解することができる	マタニティサイクル各期の女性および胎児の異常経過とそれらに対する看護について理解できるとともに、異常経過時の女性や家族の心理的側面に配慮した看護について考えることができる	マタニティサイクル各期の女性および胎児の異常経過とそれらに対する看護について理解できるとともに、優先順位を踏まえた緊急時の対応について考えることができる	マタニティサイクル各期の女性および胎児の異常経過とそれらに対する看護について理解することができる	マタニティサイクル各期の女性および胎児の異常経過とそれらに対する看護のために必要な情報をデータとして挙げることは出来るが分析が不十分である	マタニティサイクル各期の女性および胎児の異常経過とそれらに対する看護について理解することができない
4	マタニティサイクル各期の女性および胎児とその家族の心理・社会的特性をふまえた看護について理解することができる	マタニティサイクル各期の女性および胎児とその家族の心理・社会的特性をふまえた看護について理解することができ、事例に必要な社会的資源を具体的に提案し、保健指導を実施することができる	マタニティサイクル各期の女性および胎児とその家族の心理・社会的特性をふまえた看護について理解することができ、事例に必要な社会的資源を具体的に考えることができる	マタニティサイクル各期の女性および胎児とその家族の心理・社会的特性をふまえた看護について理解することができる	マタニティサイクル各期の女性および胎児とその家族の看護のために、心理・社会的特性をふまえた情報を収集することができないか、情報収集しデータとして挙げることは出来るが分析が不十分である	マタニティサイクル各期の女性および胎児とその家族の心理・社会的特性をふまえた看護について理解することができない
5	マタニティサイクル各期の女性および新生児期における特有のフィジカルアセスメントを理解し、看護計画を立案することができる	マタニティサイクル各期の女性および新生児期における特有のフィジカルアセスメントを理解し、事例に沿った個別性のある看護計画を立案し、看護計画を立案することができる	マタニティサイクル各期の女性および新生児期における特有のフィジカルアセスメントを理解し、事例に沿った個別性のある看護計画を立案することができる	マタニティサイクル各期の女性および新生児期における特有のフィジカルアセスメントを理解し、看護計画を立案することができる	マタニティサイクル各期の女性および新生児期における特有のフィジカルアセスメントは理解できるが、アセスメントを看護計画へ活かすことができない	マタニティサイクル各期の女性および新生児期における特有のフィジカルアセスメントが理解できず、看護計画の立案に至らない
6	マタニティサイクル各期の女性および新生児期における特有の看護援助技術を理解し、基本的な観察や看護援助技術を用いて修得することができる	マタニティサイクル各期の女性および新生児期における基本的な観察や看護援助技術を用いて実施することができ、かつ、それらの看護援助技術を他者へ指導することができる	マタニティサイクル各期の女性および新生児期における基本的な観察や看護援助技術を用いて実施することができ、かつ、退院後の対象の環境に合わせた注意点を考慮して、実施することができる	マタニティサイクル各期の女性および新生児期における特有の看護援助技術を理解し、基本的な観察や看護援助技術を用いて修得することができる	マタニティサイクル各期の女性および新生児期における基本的な観察や看護援助技術を実施するにあたり、しばしば教員の助言が必要である	マタニティサイクル各期の女性および新生児期における特有の看護援助技術が理解できず、基本的な観察や看護援助技術を用いて実施することができない